

パークシャー種育成豚及び肥育豚の能力調査成績

【1 成果概要】

育成豚の産肉性は、改良目標に対し背脂肪は厚めですが、DG（1日平均増体重）、飼料要求率は上回り、母豚の繁殖成績は、成績が安定する3産目において、改良目標に対し離乳頭数、離乳時1腹総体重が上回ります。（表1、2）
肥育成績は、背脂肪が厚めですが、発育性に優れており、ロース断面積は改良目標値とほぼ同等です。（表3）

（育成豚発育能力）

表1 育成豚産肉能力



	105kg 到達日齢	DG	飼料要求率	背脂肪厚	ロース断面積
雄(20頭)	162日	825g/日	3.33	2.9 cm	23.6 cm ²
雌(18頭)	188日	665 g/日	3.82	2.7 cm	23.7 cm ²
改良目標(雄)		720 g/日	3.40	2.2 cm	30.0 cm ²

調査は豚体重 30～105kg の期間で行い、調査開始から 50 日間は前期飼料(TDN77%,CP16%)、51 日目以降は後期飼料(TDN72%,CP14.5%)で飼養し、105kg 到達時に超音波測定器で体長 1/2 部位で背脂肪厚とロース断面積を測定。

（繁殖成績）

表2 導入母豚繁殖成績



産次	分娩頭数	離乳頭数	離乳時1腹総体重
1産(5頭)	8.0頭	6.8頭	38.3 kg
2産(5頭)	9.4頭	7.4頭	45.5 kg
3産(5頭)	10.0頭	9.2頭	52.2 kg
改良目標(雌)		8.9頭	52.0 kg

分娩頭数は死産子豚を含み、離乳は分娩後 21 日で実施。

（肥育豚発育・枝肉成績）

表3 肥育豚発育・枝肉成績



	出荷日齢	DG	飼料要求率	背脂肪厚(セ)	ロース断面積(第10-11胸椎間)
去勢	186日	757 g/日	3.82	3.0 cm	28.6 cm ²
雌	201日	683 g/日	3.97	2.7 cm	33.0 cm ²

調査は豚体重 30～110kg の期間で行い、体重 30～69kg は前期飼料(TDN77%,CP16%)、体重 70～110kg は後期飼料(TDN77%,CP14.5%)で飼養。

【2 留意事項】

- 平成 19 年 3 月に大分県種豚生産者から導入したパークシャー種雄豚 3 頭、雌豚 5 頭及びその産子に係る能力調査です。
- 改良目標とは、岩手県家畜及び鶏の改良増殖計画書の平成 27 年を目標としたパークシャーの改良目標値です。
- 純粋パークシャー種生産農場が導入する際は、近交係数が急激に上昇しないように自場の種豚との血縁関係を考慮して行う必要があります。

【3 効果】

育成豚導入を検討する際の参考になるとともに、農家種豚群の改良につながります。

【4 適応対象】

県内養豚指導者及びパークシャー種飼養農家等